

使用上の注意：①本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに、時期を失しないよう散布する。なお、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれがあるので、必ず適期に散布する。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカに対しては発生前から発生始期まで、アオミドロ、表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。②コナギ多発田では効果が劣ることがあるので使用をさける。③苗の植付けが均一となるよう代かきはいねに行なう。未熟有機物を施用した場合は、特に代かきはいねに行なう。④散布に当っては、水の出入りを止め、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水

状態(3～5 cm程度)を保ち、田面が露出することのないようにし、また落水やかけ流しはしない。⑤砂質土壌の水田、漏水の大きな水田(減水深2 cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田あるいは極端な浅植の水田では、初期生育の抑制が生ずるおそれがあるので使用しない。特に前述の条件と散布時または散布後数日以内に梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意する。⑥活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは初期生育の抑制などの生ずるおそれがあるので、使用に際しては県の防除指針に基づき、関係機関の指導を受ける。

植 調 協 会 だ よ り

◎ 会計監査について

昭和62年5月6日(水)、昭和61年度事業の実施状況・収支決算につき監査を受けた。

◎ 第53回役員会開催す

昭和62年5月21日(木)、植調会館3階会議室において開催され、次の議案につき審議可決された。

1. 役員人事の件
2. 昭和61年度事業報告及び決算報告承認の件
3. 昭和61年度剰余金処分(案)承認の件
4. 昭和62年度事業計画及び予算(案)承認の件
5. 試験圃場購入並びに研究室整備の件
6. その他報告

1. 役員人事の件

このたび、理事としてご尽力をいただいた上井忠太郎氏、吉見康宏氏及び山崎慎一氏が退任された。長い間大変ご苦労様でした。

次の各氏が新たに理事に選任された。

新任理事 高橋省吾(三共株式会社取締役)

” 浜 宏幸(全国農業協同組合連合会
肥料農業部長)

” 高橋長二(前岩手県立農業試験場長)

2. 昭和61年度事業報告及び決算報告承認の件

1) 昭和61年度事業報告について

(1) 一般事業に関する事項

① 第51回役員会(昭和61年5月21日開催)

第52回役員会(昭和61年12月24日開催)

② 監査(昭和61年5月7日実施)

③ 評議員会(昭和61年9月25日開催)

(2) 受託・委託試験研究事業に関する事項

ア 重点研究課題

- ① 水田一発処理剤の開発利用に関する研究
(継続)
- ② 水田一発処理剤の補正散布に関する研究
(継続)
- ③ 水田除草剤モデル圃場試験の実施(継続)
- ④ 水田難防除雑草に関する研究(継続)
- ⑤ 水田雑草発生診断法に関する研究(継続)
- ⑥ 機械散布技術の確立に関する研究(継続)
- ⑦ 水稻倒伏軽減剤の開発に関する研究(継続)
- ⑧ 畑地用細粒剤の開発に関する研究(継続)

イ 受託試験

永年使用除草剤総合安全性確認調査技術確立に関する研究(3年目)

ウ 受託・委託試験

- ① 除草剤および生育調節剤の薬効・薬害試験
昭和60年度冬作関係……86薬剤の延べ401点
昭和61年度夏作関係……655薬剤の延べ3,318点
- ② 除草剤および生育調節剤の試験結果
 - (a) 昭和60年度冬作関係……86薬剤のうち,
「実」2薬剤,「実・継」42薬剤,「継」
42薬剤
 - (b) 昭和61年度夏作関係……655薬剤のうち,
「実」75薬剤,「実・継」295薬剤,「継」
276薬剤,「継・？」9薬剤
 - (c) 昭和61年度普及適用性試験……1,259件
 - (d) 昭和61年度農薬作物残留分析試験……
123件
 - (e) 昭和61年度土壌残留分析試験……15件

2) 昭和61年度収支決算報告について

(1) 公益事業会計

収 入	51,141,463 円
支 出	46,000,333 3
収支差額	5,141,130

(2) 公益委託試験会計

収 入	1,374,934,115 円
支 出	1,299,246,868
収支差額	75,687,247

(3) 収益事業会計

収 入	15,126,612 円
支 出	13,303,847
収支差額	1,822,765

(4) 公益特別試験会計

永年使用除草剤総合安全性確認調査技術
確立委託費(国庫委託費)

収 入	4,125,230 円
支 出	4,125,230

3. 昭和61年度剰余金処分承認の件

- (1) 公益事業会計剰余金 5,141,130 円
うち, 4,500,000 円を協会準備金へ繰入
れ, 641,130 円を次期繰越剰余金とする。
- (2) 公益委託試験会計剰余金 75,687,247 円
- (3) 収益事業会計剰余金 1,822,765 円
(2)・(3)については, 次期繰越剰余金とす
る。

4. 昭和62年度事業計画及び予算承認の件

1) 昭和62年度事業計画について

[事務局]

- (1) 植物調節剤の開発利用に関する調査研究
- ① 水田体系は正用除草剤(一発処理剤)の開
発に関する研究
- ② 水田一発処理剤の補正散布に関する研究
- ③ 水田難防除雑草に関する研究
- ④ 水田除草剤の機械散布技術の確立に関する
研究
- ⑤ 水田除草剤モデル圃場の設置
- ⑥ 水稻倒伏軽減剤モデル圃場の設置
- ⑦ 水稻倒伏軽減剤の開発に関する研究
- ⑧ 水稻の登熟向上に関する研究

- ⑨ 畑地用細粒剤の開発に関する研究
 ⑩ 柑橘類の摘果剤に関する研究
 ⑪ 除草剤の永年使用による土壌、作物、微生物に及ぼす影響に関する調査研究
 ⑫ 市況調査研究

- (2) 植物調節剤薬効薬害試験の受託・委託，
 試験成績検討会の開催，成績書の印刷，研究成果の研究・普及行政部局に対する説明
 および研究会・講習会等の開催

[研究所]

植物調節剤の開発利用調査研究・試験の受託，および研修生の受け入れ

[支部]

各地域内の普及適用性試験（展示圃）の委託調整およびとりまとめ

2) 昭和62年度予算について

(1) 公益事業会計

収入	68,580 千円
支出	68,580 千円

(2) 公益委託試験会計

収入	1,440,180 千円
支出	1,440,180

(3) 収益事業会計

収入	16,950 千円
支出	16,950

(4) 公益特別試験会計

除草剤土壌影響調査技術確立委託費（国庫委託費）

収入	4,166 千円
支出	4,166

5. 試験圃場購入並びに研究室整備の件

(1) 研究所整備

研究所の試験圃場のうち，借用地を年次計画によって購入する。

面積	822 m ²
----	--------------------

予算	9,864 千円
----	----------

(2) 現地試験地強化

北海道長沼試験地は，北海道地区試験地のセンターとして事業を進めるので用地を購入し，研究室の整備をはかる。

① 試験圃場

面積	19,961 m ²
予算	19,961 千円

② 研究室

建築面積	50 m ²
予算	7,000 千円

6. その他報告

ブラジル植調は，昭和54年度開設以来試験実施薬剤数は延べ約90薬剤で，既に2薬剤（ナブ，フジレート）は登録済である。なおひきつづき新規薬剤を対象に大豆，菜豆，トウモロコシ，棉，コーヒー，サトウキビ，柑橘などについて除草剤，生育調節剤の適用性について試験を実施中である。

◎ 人事異動

昭和62年6月1日付

任	研究所 技師	村岡哲郎
---	--------	------

◎ 会議開催日程のお知らせ

・昭和61年度秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和62年7月2日 10時

場所：能登千里浜国民休暇村会議室（石川県羽咋市羽咋町）

・昭和61年度秋冬作野菜・花き関係除草剤生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和62年7月14～15日 10時

場所：奈良県広域地場産業振興センター会議室（大和高田市幸町2番33号）

農薬は正しく使いましょう。



●水田中期除草剤
低温時でも
安心して使える！

ウキクサ・モ類にもバッチリ効いて経済的

アピロサン[®]粒剤

- 一年生雑草及びヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、ミズガヤツリを低コストで防除。
- 低温時でも薬害の心配がない。

一発処理もできる中期除草剤

ワイダー[®]粒剤

- ヒエはもとより、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロなど多くの多年生雑草に高い効果。
- 低温時でも薬害の心配がない。

アピロサン・ワイダー普及会

武田薬品工業(株)・石原産業(株)
日本チバガイギー・BASFジャパン

●昭和62年度農薬残留分析委員会日程表

開催月日	委員会名	会場
昭和62年 5月18日(月)	第1回 作物 第1回 土壌	日植防会議室
6月16日(火)	第2回 作物	日植調会議室
7月21日(火)	第3回 作物	日植防会議室
9月29日(火)	第4回 作物	日植調会議室
10月 2日(金)	第2回 土壌	

開催月日	委員会名	会場
昭和62年11月17日(火)	第5回 作物	日植防会議室
12月18日(金)	第6回 作物 第3回 土壌	日植防会議室
昭和63年 1月19日(火)	第7回 作物	日植調会議室
2月23日(火)	第8回 作物	日植防会議室
3月22日(火)	第9回 作物	日植調会議室
24日(木)	第4回 土壌	

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)832-4188(代)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

昭和62年6月発行

植調第21巻第3号

定価400円(送料170円)

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)833-1821番(代)